

大腸 CT 検査の ご案内

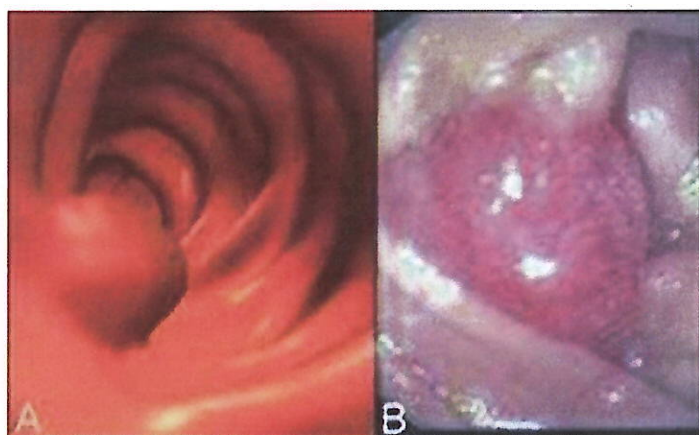


大腸 CT 検査とは

大腸を炭酸ガスの注入によって拡張させ、最新のマルチスライス CT 装置を用いて撮影することで、大腸の3次元画像を簡単に得ることが出来るようになりました。内視鏡検査と比較して、苦痛がなくスムーズに大腸の検査が可能です。欧米では、CT を用いて大腸を診断する事が一般化しており、CT コロノグラフィとして大腸がん検診への応用が始まっています。

CT コロノグラフィのメリット

これまでの大腸がん検診は、便潜血反応を主体に行われてきました。しかし早期がんの診断における感度は低く、便潜血陰性の進行がんもあるため、その精度は必ずしも満足のいくものではありません。また内視鏡検査は早期がんの最も感度が高い方法ですが、検査における苦痛が多いのが問題でした。CTコロノグラフィは検査の負担が少なく、精度が高い方法として、有用な大腸の診断方法であることが明らかになっています。



CT コロノグラフィ

大腸内視鏡

長 所

- ・短時間の検査(10分程度)です。
- ・大腸内視鏡とは異なり、苦痛のない検査が可能です。
- ・臨床的に問題となる5mm以上のポリープにおける十分な診断が確認されています。
- ・大腸内視鏡の挿入が困難な方でも検査が容易です。
- ・大腸検査で問題となる大腸穿孔や出血などの偶発症が極めて稀です。

短 所

- ・組織の採取が出来ないので、異常が指摘された場合は内視鏡をうける必要があります。
- ・CT撮影に伴う医療被ばくがあり、妊娠の可能性のある方は検査を受けることができません。
- ・表面型病変や5mm以下のポリープを見つける能力は大腸内視鏡に比べ劣っています。

大腸CT検査の流れ

検査前日

前 処 置

他の大腸検査同様、腸の中をきれいにする必要がありますが、CTコロノグラフィでは大腸内を完全にきれいにする必要はありません。検査前日の検査食の後に、少量の造影剤(バリウム)を飲んでいただきます。大腸内視鏡のように多量の下剤を服用する必要はありません。



検査当日

下剤の服用

検査当日の朝に、下剤を服用していただきます。



炭酸ガスによる大腸の拡張

※検査前に腸の動きを抑える注射をします。

細いチューブを肛門から僅かに挿入し、炭酸ガスを注入することで、大腸を拡張させます。炭酸ガスは腸管から速やかに吸収されるため(空気の130倍も早く)、検査後の膨満・腹痛はほとんどありません。

約10分



CT撮影

うつ伏せと仰向けの2体位で撮影を行います。1回の撮影時間は約10秒程度です

終了

検査後は、普通に食事をしていただいて結構です。

注射の影響により検査後しばらくは目がちらついたりすることがありますのでご注意ください。

画 像 処 理

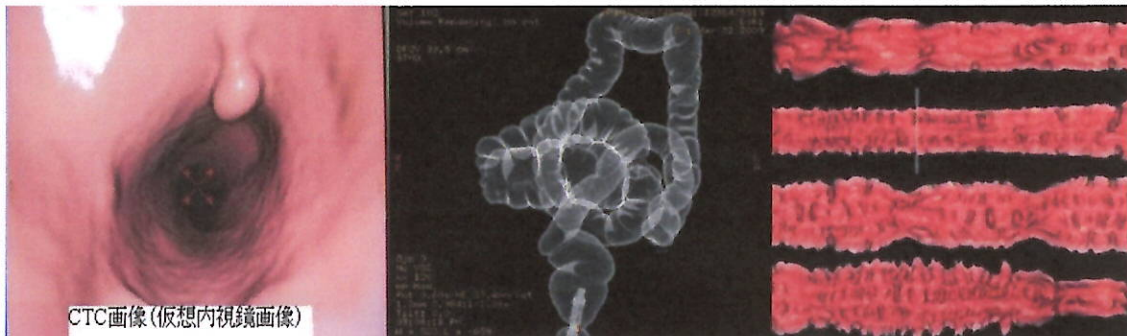
撮影したCT画像データを用いて、画像処理により、大腸3次元診断を行います。

大腸CT検査(CTコロノグラフィ)による大腸画像診断

マルチスライスCTのデジタル画像データを活用することで、多彩な大腸の3次元画像表示が可能になります。

従来から用いられている仮想内視鏡像(図1)のみならず、注腸検査に類似した仮想注腸像も可能です(図2)。

更に大腸を仮想的に切り開く表示法も開発され、大腸の粘膜全体を盲点なく観察する仮想大腸展開画像(図3)も可能になりました。こうした3次元表示法の進歩により、CTコロノグラフィは益々有用な方法になっております。



CTC画像(仮想内視鏡画像)

(図1)仮想内視鏡像

(図2)仮想注腸像

(図3)仮想大腸展開画像

お問い合わせ

一般社団法人 至誠会第二病院

〒157-8550 東京都世田谷区上祖師谷 5-19-1

URL:<http://www.shiseikai-daini-hosp.jp/>

TEL:03-3300-0366(代表)

FAX:03-3307-6731(代表)